

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第36週の発生動向

全数報告の感染症 (36週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。3 類感染症：報告なし。4 類感染症：報告なし。
- 5 類感染症：アメーバ赤痢 1 例、カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1 例、急性脳炎 1 例、水痘 (入院例) 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	50歳代	男	肺結核	症状なし
			60歳代	女	無症状病原体保有者	-
			80歳代	女	肺結核	痰、発熱
5類	アメーバ赤痢	宮崎市	50歳代	男	腸管アメーバ症	大腸粘膜異常所見、便潜血陽性
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	都城	90歳代	女	-	肺炎 菌種:肺炎桿菌ESBL産生菌
	急性脳炎	宮崎市	80歳代	男	単純ヘルペスウイルス	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加
	水痘(入院例)	宮崎市	0~4歳	男	検査診断例	発疹、他疾患入院中の発症

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 666 人 (定点当たり 23.1) で、前週比 109% と増加した。前週に比べ増加した主な疾患は手足口病とマイコプラズマ肺炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【RSウイルス感染症】

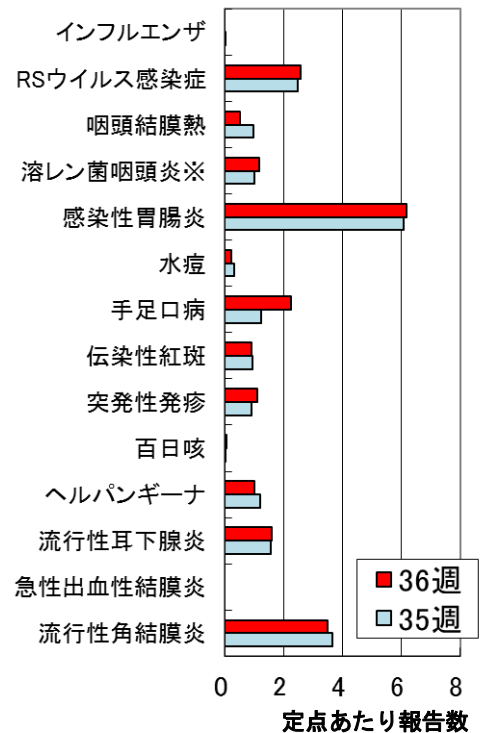
報告数は 92 人 (2.6) で、前週比 103% とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値* (4.2) の約 0.6 倍であった。日向 (8.0)、延岡 (5.3) 保健所からの報告が多く、年齢別は 1 歳が全体の約半数を占めた。

【手足口病】

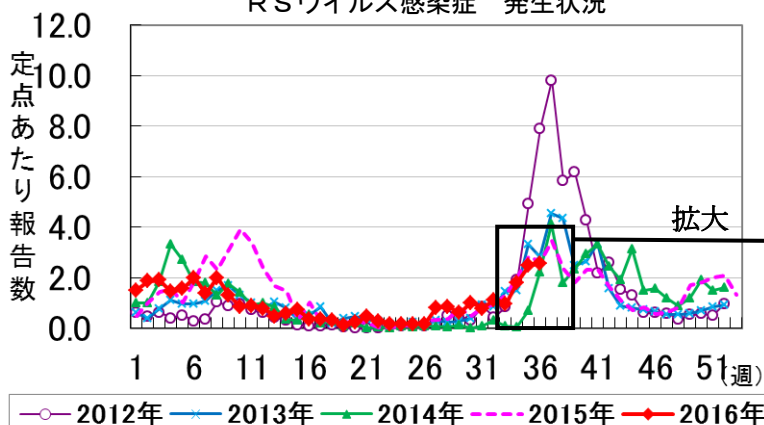
報告数は 81 人 (2.3) で、前週比 184% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (3.8) の約 0.6 倍であった。延岡 (6.8)、日南 (3.7)、日向 (3.0) 保健所からの報告が多く、年齢別は 1 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

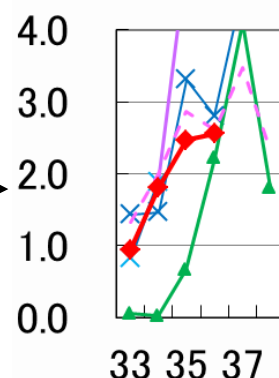
《前週との比較》

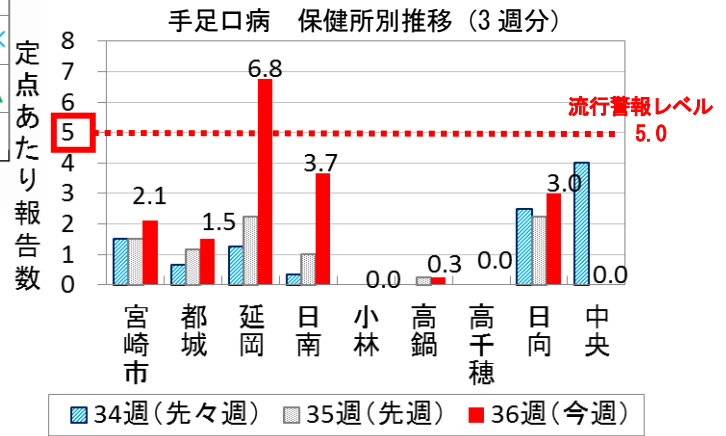
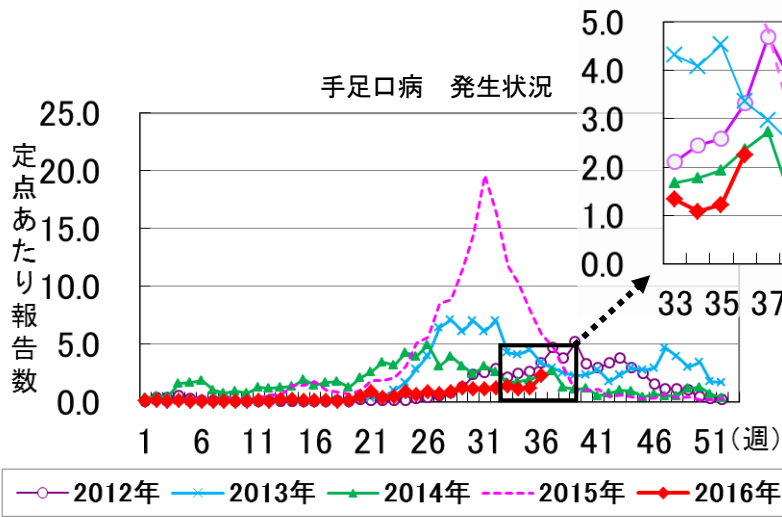


RSウイルス感染症 発生状況



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎





★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：延岡保健所から報告があった。5～9歳が1例であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市(10例)、延岡、日南、高鍋、日向(各1例)保健所から報告があった。0～4歳が5例、5～9歳が5例、10歳代が3例、30歳代が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	手足口病(6.8)
日南	なし
小林	伝染性紅斑(2.0)、流行性耳下腺炎(3.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(4.3)
中央	百日咳(1.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・手足口病(5.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・百日咳(1.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 28 年 9 月 12 日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5～9歳	男	2016.8.24	気管支炎、咳、嘔吐	鼻咽頭ぬぐい液	2016.9.5
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5～9歳	女	2016.8.24	下気道炎、咳、嘔吐、スタックート、ウーブ	鼻咽頭ぬぐい液	2016.9.5
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	女	2016.8.29	発熱、上気道炎	鼻咽頭ぬぐい液	2016.9.9
EAggEC(O111:H21)	0～4歳	男	2016.8.26	水様便、軟便	便	2016.9.8
<i>Salmonella</i> Typhimurium(O4:i:-)	5～9歳	女	2016.8.29	下痢	便	2016.9.8

○3名の患者から百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) が分離された。百日咳の分離には、ボルデー・ジャング (Bordet-Gengou) 培地や CSM (cyclodextrin solid medium) 培地などの特殊な培地を必要とし、乳児以外では菌の分離は困難なことが多い。衛生環境研究所では、スクリーニングとして Real-time PCR 法、確定検査として LAMP 法を行い、菌の分離には改良型 CSM 培地を用いることで、分離率の向上を図っている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
エコーウイルス25型	0～4歳	女	2016.08.16 2016.08.17	新生児発熱、38℃	髄液 便	2016.09.12 2016.09.05
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.08.14	エンテロウイルス感染症、40.2℃、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.09.05
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	男	2016.08.18	(初回)喘息発作、39.7℃、気管支炎、喘鳴(+)	咽頭ぬぐい液	2016.09.05
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	男	2016.08.15	エンテロウイルス疑い、38.2℃、発疹(紅斑)、下痢	咽頭ぬぐい液	2016.09.05
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	男	2016.08.16	急性弛緩性まひ、39.9℃、上気道炎(咽頭炎)、麻痺(全身性)	便 咽頭ぬぐい液	2016.09.05
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	男	2016.08.14	手足口病、口内炎、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2016.09.08
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	男	2016.07.25	手足口病、38.3℃、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.09.08
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	女	2016.08.17	手足口病、38.6℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2016.09.08
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.07.28	急性脳症、40.0℃、熱性けいれん、座位保持不可、上気道炎、発疹(紅斑)	便 血清	2016.09.06
パラインフルエンザウイルス3型 ライノウイルス	0～4歳	男	2016.08.26	百日咳疑い、下気道炎(気管支炎)、咳き込み嘔吐、無呼吸	咽頭ぬぐい液	2016.09.02
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2016.08.19	不明熱、38.0℃、下気道炎(気管支炎)、咳	咽頭ぬぐい液	2016.09.02
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	男	2016.08.07	下気道炎(肺炎)、熱性けいれん、40.3℃	咽頭ぬぐい液	2016.09.02

○手足口病疑いの幼児 3 名からコクサッキーウイルス A16 型 (CA16) が検出された。CA16 は無菌性髄膜炎を引き起こすことがあるが、基本的に予後は良好である。手足口病の主な起因ウイルスとして CA16、エンテロウイルス 71 型 (EV71)、コクサッキーウイルス A6 型 (CA6) がよく知られているが、年によって流行する血清型が異なる。今年に入り、全国の手足口病の患者から検出・分離されたウイルスは CA6 とコクサッキーウイルス A4 型 (CA4) が多くなっている。CA4 による無菌性髄膜炎も報告されていることから今後の動向に注意が必要である。

○3 名の乳幼児からコクサッキーウイルス B5 型が検出された。

🇯🇵 全国 2016 年第 35 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 35 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	426 例				
3類感染症	コレラ	2 例	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	232 例
	パラチフス	1 例				
4類感染症	E 型肝炎	2 例	A 型肝炎	1 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	13 例	日本紅斑熱	6 例	レジオネラ症	39 例
	レプトスピラ症	1 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	16 例	ウイルス性肝炎	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	26 例
	急性脳炎	9 例	クリプトスポリジウム症	2 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	6 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例	後天性免疫不全症候群	22 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	16 例	水痘 (入院例)	5 例
	梅毒	56 例	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	5 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	風しん	1 例	麻しん	26 例

麻しんの報告数は 26 例で前週比約 3 倍と増加した。大阪府 (10 例)、東京都 (5 例)、千葉県、兵庫県 (各 4 例) からの報告が多く、九州地方からの報告はなかった。年齢別では 20 歳代が全体の約 4 割を占めた。

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 108% と増加した。前週と比較して増加した主な疾患は RSウイルス感染症と感染性胃腸炎であった。減少した主な疾患は水痘と流行性耳下腺炎であった。

RSウイルス感染症の報告数は 2,725 人 (0.86) で前週比 165% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.52) の約 1.7 倍であった。宮崎県 (2.5)、岩手県 (2.3)、新潟県 (2.2) からの報告が多く、年齢別では 1 歳が全体の約半数を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 2,959 人 (0.94) で前週比 89% と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.41) の約 2.3 倍であった。富山県 (3.5)、新潟県 (2.4)、熊本県 (2.2) からの報告が多く、年齢別では 4~6 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

📊 月報告対象疾患の発生動向 <2016年8月>

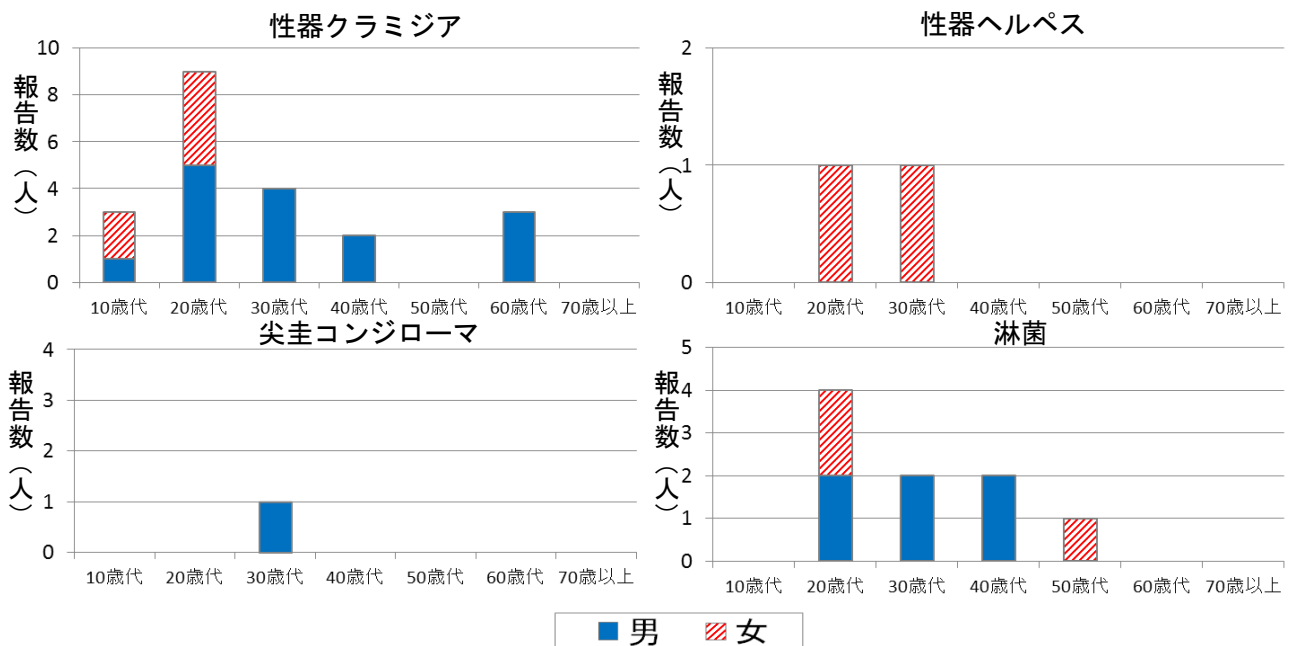
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は33人(2.5)で、前月比114%と増加した。また、昨年8月(2.8)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数21人(1.6)で、前月(1.5)の約1.1倍、昨年8月(2.0)の約0.8倍であった。20歳代が全体の約4割を占めた。(男性15人・女性6人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人(0.15)で、前月(0.23)の約0.7倍、昨年8月(0.15)の1.0倍であった。(女性2人)
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月及び昨年8月(0.23)の約0.3倍であった。(男性1人)
- 淋菌感染症：報告数9人(0.69)で、前月(0.31)の約2.3倍、昨年8月(0.46)の約1.5倍であった。(男性6人、女性3人)



【全国】 定点医療機関総数：970

定点医療機関からの報告総数は4,199人(4.3)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,126人(2.2)で前月比103%、性器ヘルペスウイルス感染症816人(0.84)で前月比100%、尖圭コンジローマ489人(0.50)で前月比94%、淋菌感染症768人(0.79)で前月比115%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は13人(1.9)で前月比68%と減少した。また、昨年8月(3.0)の約0.6倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数11人(1.6)で、前月の約0.6倍、昨年8月(3.0)の約0.5倍であった。70歳以上が全体の約4割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数2人(0.29)で、60歳以上であった。(前月及び昨年8月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：473

定点医療機関からの報告総数は1,560人(3.3)で、前月比109%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,388人(2.9)で前月比109%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症154人(0.33)で前月比107%、薬剤耐性緑膿菌感染症18人(0.04)で前月比200%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第36週(9月5日～9月11日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1										
	定点あたり	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	89	92	16	5	21	6	5	7		32	
	定点あたり	2.47	2.56	1.60	0.83	5.25	2.00	1.67	1.75	0.00	8.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	35	18	3		8	3	2	1		1	
	定点あたり	0.97	0.50	0.30	0.00	2.00	1.00	0.67	0.25	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	36	42	12	3	5	4	1	6		8	3
	定点あたり	1.00	1.17	1.20	0.50	1.25	1.33	0.33	1.50	0.00	2.00	3.00
感染性胃腸炎	報告数	218	222	48	47	9	27	36	13		35	7
	定点あたり	6.06	6.17	4.80	7.83	2.25	9.00	12.00	3.25	0.00	8.75	7.00
水痘	報告数	11	8	2		3			1		1	1
	定点あたり	0.31	0.22	0.20	0.00	0.75	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	1.00
手足口病	報告数	44	81	21	9	27	11		1		12	
	定点あたり	1.22	2.25	2.10	1.50	6.75	3.67	0.00	0.25	0.00	3.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	34	32	11	2	2	2	6	2		7	
	定点あたり	0.94	0.89	1.10	0.33	0.50	0.67	2.00	0.50	0.00	1.75	0.00
突発性発しん	報告数	33	40	7	2	10	7	4	4		6	
	定点あたり	0.92	1.11	0.70	0.33	2.50	2.33	1.33	1.00	0.00	1.50	0.00
百日咳	報告数	1	2	1								1
	定点あたり	0.03	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
ヘルパンギーナ	報告数	43	36	9	4	7	3	1	6		4	2
	定点あたり	1.19	1.00	0.90	0.67	1.75	1.00	0.33	1.50	0.00	1.00	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	56	57	4	6	5	3	9	10	2	17	1
	定点あたり	1.56	1.58	0.40	1.00	1.25	1.00	3.00	2.50	2.00	4.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	22	21	20		1						
	定点あたり	3.67	3.50	6.67	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	6	14	10		1	1		1		1	
	定点あたり	0.86	2.00	10.00	0.00	1.00	1.00	0.00	1.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～36週)

2類感染症	結核	144例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10例				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	6例
	つつが虫病	6例	日本紅斑熱	3例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	12例(1)	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4例(1)
	急性脳炎	10例(1)	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	5例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	2例(1)	梅毒	7例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	1例				

()内は今週届出分、再掲